

農事組合法人「むぎわらぼうし」代表理事

野崎義則さん

明日へ向かって駆ける

農業法人の経営者は語る

「3人の仲間で法人を立ち上げて6年間やってきた。代表者だからと無理に3人を束ねるのではなく、それぞれの持ち味、発想を大切にしていきたい」と話す京都市左京区広河原の「農むぎわらぼうし」代表理事の野崎義則さん(46)。

同地区は京都市の最北端に位置し約100人が住んでいる。冬場は積雪が多く、高齢化・過疎化が著しい。スキー場経営をしていた西河友彦さん(52)が、広河原の自然にほれ込み農業をやろうと一大決心。スキー場を手伝っていた野崎さんと知人の亀井芳郎さん(50)を誘い、地

区外からやって来た若者3人の野菜作りが始まった。

2009年6月に野崎さんを代表理事に、西河さん、亀井さんが理事になって同法人を設立した。「農業も知らないよそから来た若い者だから、地元の人たちと溶け込むのが大変だった」と振り返る。

山間の休耕地60㍎を借り入れ、無農薬、有機質肥料にこだわった野菜生産を手がけたが、

失敗もあり試行錯誤の繰り返しだった。地域にも認めてもらおうと、地元の行事や消防団活動にも積極的に参加した。「JA

京都中央の花背支店や、地域の方々に暖かく見守ってもらってきた」と野崎さん。

そんな一生涯懸命な3人の姿を見て、現在は約2㍎まで規模を拡大し、地元の野菜加工グループにもアドバイスするなどの関係を築いている。また、就農希

望の研修生3人を受入れ、そのうち1人が隣の花背地区で就農した。

同法人の現在の主な作物は、イチゴ、ブルーベリー、カシス、カボチャ、キュウリなど多種にわたる。自分たちのこだわり栽培を理解してくれる青果店や、近隣の直売所「里の駅・大原」で販売している。

野崎さんは「同地区のみならず一緒にやって地域活性化に取り組んでいきたい。広河原の特徴を生かした魅力のある農作物を作り、多くの人たちに食べてもらい、『農むぎわらぼうし』を広く知ってもらいたい」と話す。

法人所在地 京都市左京区広河原尾花町286、(電)075(746)0831。

法人概要 2009年6月設立。理事3人。主な農作物はイチゴ、ブルーベリー、カボチャ、キュウリ、キャベツ、カシスなど約2㍎で生産。農機はトラクター1台、管理機1台、種まき機1台。



▶ 地域の人たちと一緒に頑張る野崎さん

仲間の持ち味大切に